



カケハシ・プロジェクト（派遣プログラム）の記録 対象：高校生派遣（カナダ）

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、日本の高校生および引率者計 14 名がカナダへ派遣され、日本の政治、経済、社会、文化、歴史に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、2020 年 1 月 18 日～1 月 26 日の日程でプログラムを実施しました。

一行は、地域住民や高校生・大学生および日本語学校の生徒との交流で日本の魅力を発信し、視察先ではカナダや日加両国の関係について理解を深めました。プログラム中、各々の関心事項や体験について SNS を通じて積極的に対外発信を行いました。また、帰国前のワークショップ・報告会では、カナダ訪問経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加団体・人数】

札幌市立札幌開成中等教育学校：12 名（高校生）・2 名（引率者）

【訪問地】

カナダ（ブリティッシュ・コロンビア州 バンクーバー市およびビクトリア市）

2. 日程

1/18(土)	【到着】 【オリエンテーション】 【視察】スタンレー公園, ガスタウン
1/19(日)	【視察】グラウス山 【ホームステイ】
1/20(月)	【学校交流】モスクロップ高校
1/21(火)	【視察】カムイミンタラ 【視察】ブリタニア造船所跡 【視察, 講義】ジョージア湾缶詰工場 【視察】チャイナタウン
1/22(水)	【表敬訪問】ブリティッシュ・コロンビア州議会 【視察】ロイヤル・ブリティッシュ・コロンビア博物館 【視察】クレイダーロック城
1/23(木)	【文化体験】カーリング（於：ロイヤル・シティ・カーリング・クラブ） 【視察】日系カナダ人国立博物館 【学校交流】サイモン・フレーザー大学 【学校交流】バンクーバー日本語学校
1/24(金)	【表敬訪問】カナダ・アジア太平洋財団事業部長 ハリソン・スコット 氏 【視察】孫文中国庭園（中山公園） 【視察】ビル・リード・ギャラリー

	【視察】ロブソン通り
1/25(土)	【ワークショップ（報告会準備）】 【成果報告会】 【出発】
1/26(日)	【帰国】

3. プログラム記録写真

	
<p>1/20【学校交流】モスクロップ高校</p>	<p>1/20【学校交流】モスクロップ高校</p>
	
<p>1/20【学校交流】モスクロップ高校</p>	<p>1/22【表敬訪問】ブリティッシュ・コロンビア州議会</p>
	
<p>1/23【視察】日系カナダ人国立博物館</p>	<p>1/23【文化体験】カーリング</p>

	
<p>1/23【学校交流】サイモン・フレーザー大学</p>	<p>1/23【学校交流】バンクーバー日本語学校</p>
	
<p>1/24【表敬訪問】カナダ・アジア太平洋財団事業部長 ハリソン・スコット 氏</p>	<p>1/25【ワークショップ（報告会準備）】</p>

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 体験したことの中で一番印象に残り、帰国後に広めたいと思ったことは、ホームステイです。特に、ホストファミリーの方が「カナダではもちろん一人一人がカナダ人であるという意識はあるけれど、それ以上にそれぞれのバックグラウンドを尊重する。」という一言が印象的でした。一家はセルビア系カナダ人で、お父様のご両親は移民としてカナダに移住する際に厳しい思いをしたことを話してくださいました。移住後も一家は、セルビアのルーツを大切にし、その言語を話し、アイデンティティを尊重していました。これは、カナダの移民の受け入れに寛容な社会のおかげだと思い、本当に感動しました。カナダの社会、教育を研究し参考にすることが必要だと感じました。

◆ モスクロップ高校を訪問した際、様々な文化やルーツを持った生徒が互いに区別することなく生活していることがわかりました。また、多様性を学ぶための学校の取り組みとして天井に日本やアメリカなど多くの国旗がディスプレイされていたり、国の文化について学ぶ“多文化共生祭り”が開催されていたりするなど、カナダの人々は日ごろから多文化共生について考えていることがわかりました。さらに、ホームステイの際、多文化が集まるカナダで生きていくために必要なことは「他人に心を開くこと」であるとホストファミリーの方は考えており、また、私が「カナダの授業は日本と違って生徒に多く意見を発表させて良いと思う。」などと言った際に「カナダにはカナダの良さがあるし、日本には日本の良いところがある。」と彼は教えてくれました。さらにこれに

限らず他のカナダ人も私がカナダと日本を比較しカナダの良いところを挙げた際、同じことを言っていました。この経験からカナダの人々は自分の文化と他の文化を比較して優劣をつけることなく、それぞれの文化を尊敬する心があることがわかりました。

◆ 私は先住民族のお話を聞いた時、アイヌや日本、北海道のことについて質問されてもほとんど答えられなかったことが恥ずかしかったです。海外のことを知るためには、まず自国の理解をしっかりと深め、他の人にも説明できるくらいの知識を持っていないといけないと思いました。また、英語力も強化したいと思いました。ホームステイ先では何とか意思疎通することができましたが、自分の英語力がもっと高かったらもっとホストファミリーと会話を楽しむことができ、カナダの学生と深い交流もできたのにと後悔しています。2日間という短い時間でしたが英語を話すという環境で過ごせたことはとても嬉しく思いました。自分の英語が通じたのも嬉しかったです。教育に関していえば、日本は点数社会ではなく、もっと人間性を伸ばし、中身を評価するような面白い教育が必要だと感じました。私は教育の分野でそのようなシステムを支援するような人材になりたいと思います。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 学校交流参加学生

日本の高校生のプレゼンテーションは興味深かく、彼らが育った文化について知ることができました。プレゼンテーションの中に個人的な内容を含んでいたのも良かったです。

書道は興味深い体験でした。カナダと日本の文化はとても似ているともいえ、違うともいえます。

◆ 学校交流参加学生

日本人学生たちはとてもフレンドリーで親切でした。パフォーマンスはエネルギーにあふれていて熱心でした。とても楽しかったです。まるでプロのように演じるので、彼らは本当に才能にあふれている人たちなのだと思います。話してみるととても気さくで、日本文化を伝えたいという熱意を感じました。プレゼンテーションからも多くのことを学びました。

◆ 学校交流参加学生

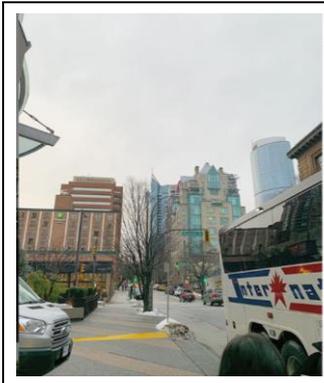
日本人高校生たちの伝統的な演技よさこいはたいへん素晴らしかったです。みんなとても親切で優しかったです。このエネルギーにあふれるダンスはとても印象深かったです。サイモン・フレーザー大学の学生にとっても、日本の高校生にとっても、お互いの学習環境の違いや文化の違いを理解する良い機会となりました。

◆ 学校交流参加学生

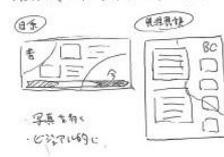
ダンスとパフォーマンスはとても興味深く、私の知らなかった日本の一面を見せてくれました。プレゼンテーションについて言えば、とても積極的なものでした。日本人高校生たちはみんなとてもフレンドリーで、日本文化に対する理解を深めてくれました。

この交流活動で、日本人学生との関係と、日本への興味がさらに強くなりました。

6. 参加者の対外発信

 <p>木や家、ビルは日本よりも大きく、道路は日本よりも広いです。また、バンクーバーはビルが多く建っていますが、自然に生えていた木も残されているので都会でありながらも自然を感じられます。</p>	 <p>校長先生のお言葉には広い世界を知った重みがありました。</p>
<p>視察についての発信 (Instagram)</p> <p>カナダにあるものは日本にあるものよりも全て大きく見えます。</p> <p>木や家、ビルは日本よりも大きく、道路は日本よりも広いです。また、バンクーバーはビルが多く建っていますが、自然に生えていた木も残されているので都会でありながらも自然を感じられます。</p>	<p>学校交流についての発信 (Instagram)</p> <p>日本語学校での発表の様子です。</p> <p>楽しんで発表することができました！</p> <p>校長先生のお言葉には広い世界を知った重みがありました。</p>
 <p>モスクロップ高校で日本の政治、文化についてプレゼンテーションをしました。</p>	 <p>視察についての発信 (Instagram)</p> <p>ジョージア缶詰工場に行きました。サーモンの缶詰に加えて、ニシンの加工品を作る工場です。グラフは白が漁獲量、青が利益を表しています。漁獲量が減少したにもかかわらず利益が増した理由は、日本人に人気の数の子を作り始めたからです。会社経営において、今も昔も他国のニーズに目を向けることの大切さを感じました。</p>
<p>学校交流についての発信 (Instagram)</p> <p>モスクロップ高校で日本の政治、文化についてプレゼンテーションをしました。</p> <p>生徒、先生方がとても興味深そうに聞いてくれて嬉しかったです。プレゼンテーション中の反応が私たち日本人と比べて大きく、私たちも楽しくプレゼンテーションをすることができました。</p>	<p>視察についての発信 (Instagram)</p> <p>ジョージア缶詰工場に行きました。サーモンの缶詰に加えて、ニシンの加工品を作る工場です。グラフは白が漁獲量、青が利益を表しています。漁獲量が減少したにもかかわらず利益が増した理由は、日本人に人気の数の子を作り始めたからです。会社経営において、今も昔も他国のニーズに目を向けることの大切さを感じました。</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

<p>WHY: 自分達と同じルーツを持つ日系の人達についての理解を深め、中世、先住民への理解を深め、日本人の先住民への理解を深めたい。</p> <p>WHEN: 2月21日、2月29日、3月1日、3月2日、3月3日、3月4日、3月5日、3月6日、3月7日、3月8日、3月9日、3月10日、3月11日、3月12日、3月13日、3月14日、3月15日、3月16日、3月17日、3月18日、3月19日、3月20日、3月21日、3月22日、3月23日、3月24日、3月25日、3月26日、3月27日、3月28日、3月29日、3月30日、3月31日</p> <p>TO WHOM: 関係者 (札幌市民)</p> <p>WHAT: 日系と先住民に関する歴史と文化の現状</p> <p>HOW: 本学、プレゼンテーション</p> 	<p>Why: 自分達と同じルーツを持つ日系の人達についての理解を深め、中世、先住民への理解を深め、日本人の先住民への理解を深めたい。</p> <p>When: 2月21日、2月29日、3月1日、3月2日、3月3日、3月4日、3月5日、3月6日、3月7日、3月8日、3月9日、3月10日、3月11日、3月12日、3月13日、3月14日、3月15日、3月16日、3月17日、3月18日、3月19日、3月20日、3月21日、3月22日、3月23日、3月24日、3月25日、3月26日、3月27日、3月28日、3月29日、3月30日、3月31日</p> <p>To Whom: 関係者 (札幌市民)</p> <p>What: 日系と先住民に関する歴史と文化の現状</p> <p>How: 本学、プレゼンテーション</p>
<ul style="list-style-type: none"> 日本人と同じルーツを持つ日系カナダ人に関する知識を高めるため、札幌市立札幌開成中等教育学校の生徒と札幌市民を対象に3月末までにポスターを制作し、プレゼンテーションをする。 先住民に対する我々の理解を考察し、日本人が先住民とどうき合うかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> カナダ滞在中に、教育、産業、文化、技術の分野での日本の魅力を発見した。このような日本の強みをどう応用するか、また、カナダの良い点を日本社会に発信していく。さらに、人々に、どのような社会を作りたいかを問う。 札幌市立札幌開成中等教育学校の生徒と、小学校の児童等若い世代を対象にポスターと新聞を作成する。同時にQRコードを用いたアンケートを掲載し、読者から回答を得るようにする。3月中にポスターと新聞を作成し、4月には回答を得るようにする。
<p>① ポスター作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 視覚的に訴えるデザイン、関係者への提示、可視化、読みやすさ、伝わりやすさ 学校での掲示、展示、活用 SNSでの発信 <p>② プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係者への説明、活用、活用 活用、活用、活用 <p>③ 座談会</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係者への説明、活用、活用 活用、活用、活用 活用、活用、活用 	
<ul style="list-style-type: none"> 学生、教職員、学校訪問者を対象に視覚に訴えるデザインのポスターを作成する。そのポスターの意味は、それを見る各人に考えてもらう。ポスターは、札幌市立札幌開成中等教育学校と他の場所に3月2日から掲示する。 学校で、いろいろな資料を使って他のチームと一緒にプレゼンテーションを行う。 3月末に中学生で留学に興味がある人向けの座談会やワークショップを行う。可能なら、国際交流プラザで、一般の方々向けにも同様のワークショップを行う。 	